



2011（平成23）年12月 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会発行

〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町1-124 埼玉県大宮合同庁舎3階

TEL 048-650-0170 FAX 048-650-0171 E-Mail 2004@sainokuni-sasa.or.jp ホームページ <http://sainokuni-sasa.or.jp>

彩の国ふれあいピック秋季大会

大きな盛り上がりの中 ～第10回記念大会～

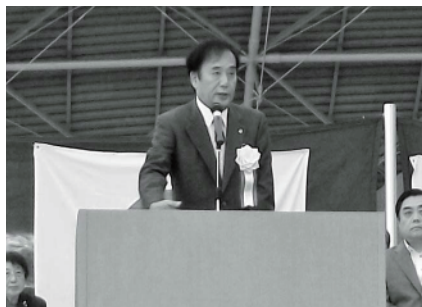
平成23年度彩の国ふれあいピック秋季大会（第24回県民総合体育大会兼第10回埼玉県障害者スポーツ大会）を9月25日（日）熊谷スポーツ文化公園において開催し、昨年を大きく上回る選手767人をはじめ、役員、ボランティア総勢1,604人が参加して行われました。

開会式は一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会大久保春美副会長の開会宣言で始まり、主催者を代表して上田清司埼玉県知事から挨拶をいただきました。ご来賓の鈴木聖二埼玉県議会議長、富岡清熊谷市長からお祝いの言葉をいただいた後、主催者を代表して上田清司埼玉県知事から選手代表・幸手市の細井美津江さん、深谷はばたき特別支援学校の木村吏さんに参加記念品が贈呈されました。この参加記念品は、埼玉県障害者スポーツ大会の節目となる第10回大会を記念して作成したもので、コバトンマーク入り防災LEDライトが参加選手にプレゼントされました。最後に参加選手を代表して長瀨町の林好久さんが力強い選手宣誓を行いました。参加者全員で行う準備体操には、「ゆる玉応援団」から埼玉県のマスコット・コバトン、熊谷市のマスコット・ニャオざね、深谷市のマスコット・ふっかちゃんが登場し、にぎやかな開会式となりました。



陸上競技、フライングディスク、ボッチャ、四面卓球バレー、ゴールボール、スポーツいろいろ体験、ダンス、ハンドサイクル、新種目のグラウンド・ゴルフ、第10回大会記念種目の玉入れの10競技と、施設等による出店の「ふれあい広場」やランチタイムイベントとしてバンド演奏、会場内6か所をめぐるスタンプラリーもあり競技以外でも盛り上がった大会となりました。

大会会長あいさつ 埼玉県知事 上田清司



本日は、記念すべき第10回目となる「彩の国ふれあいピック秋季大会」が鈴木聖二県議会議長をはじめとする県議会議員の皆様、地元熊谷市の富岡清市長をお迎えし、県内各地から大勢の選手の皆さんに御参加いただき、盛大に開催されることを大変嬉しく思います。

また、大会を運営される多くの役員・ボランティアの皆様、障害者団体の皆様には本大会の開催に多大な御尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

この大会は、障害のあるすべての方にスポーツを楽しんでもらおうという、県内でも最大級のスポーツ大会です。日ごろスポーツをしていない方や、体力に自信のない方でも楽しめる種目もたくさんあります。

選手の皆さんには、日ごろの練習の成果を発揮するとともに、他の選手とも積極的に交流し、一緒にスポーツを楽しんでいただきたいと思います。

さて、スポーツに関しては、世界を舞台に活躍している埼玉県ゆかりの方がたくさんいます。ゴルフの石川遼選手、サッカー日本代表の守護神・川島選手、この夏に世界水泳の日本代表となった古賀選手サッカーなでしこジャパンの佐々木則夫監督など大勢います。

さらに、先ごろ行われた世界陸上のマラソン男子日本代表として、国別団体戦で銀メダルを獲得した川内優輝選手。彼は、埼玉県庁の職員です。普段は仕事をしながら、一市民ランナーとして、日々練習を重ねて、世界の舞台で大健闘しました。また、この世界陸上には、両足義足の南アフリカのピストリウス選手と視覚障害を持つアイルランドのジェyson・スミス選手が、並居る世界の強豪と堂々と肩を並べて出場しました。ピストリウス選手は400メートルでは準決勝まで進みました。おそらく、本人たちの努力は並大抵のものではないでしょう。それでも決して夢をあきらめずに日々努力を続けたことが、こうした結果につながったと思います。

恵まれた人が素晴らしい成果を出すのはもちろん立派なことですが、川内選手やピストリウス選手のようにハンディを抱え決して恵まれているとは言えない人が、それを跳ね返して成果を出すということは、更に立派なことだと思います。

私の夢は、720万県民の皆さんが夢をかなえる舞台となるチャンスあふれる埼玉をつくることです。本日御参加の皆様お一人お一人が夢を持ち、その実現に向け日々努力を重ねていかれることを心から期待しています。どうか皆さんには、スポーツを通じて得たチャレンジ精神で様々な分野に、チャレンジしていただきたいと思います。

結びに、本大会の御成功と御参加の皆様の御活躍を期待申し上げて、私のあいさつとさせていただきます。

（要旨）

彩の国ふれあいピック秋季大会



四面卓球バレー



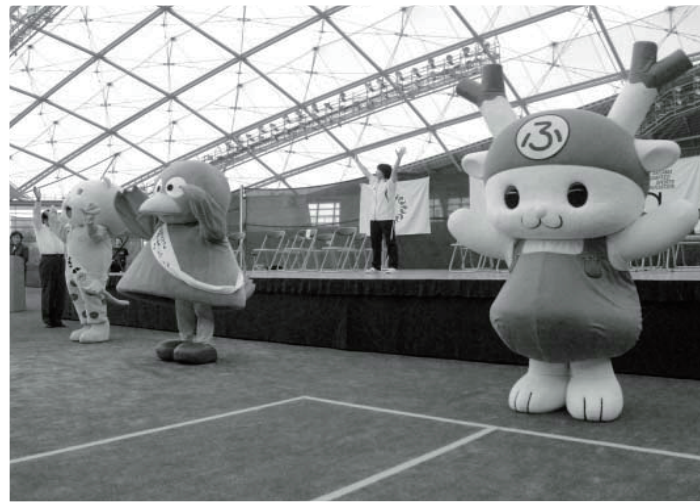
玉入れ
*第10回大会記念種目



ディスクッター9
(フライングディスク)



スタンプラリー



準備体操
*ゆる玉応援団の仲間たちと一緒に



ハンドサイクル



ふれあい広場
*16店舗が出店しました



グラウンド・ゴルフ



陸上競技

東日本大震災障がい者スポーツ義援金を募りました

秋季大会会場の熊谷スポーツ文化公園内の5か所に募金箱を設置し、義援金を募りました。

この義援金は、東日本大震災において被災した選手及び原子力発電所事故における障害者施設の避難者に対し、財団法人福島県障がい者スポーツ協会が義援金を集め、被災者を支援することを目的としています。

秋季大会でご協力いただいた義援金の総額は、**7, 346円**。

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会は、皆様からご支援いただきました義援金を平成24年3月に「東日本障がい者スポーツ義援金事務局」に対し納付を行う予定です。

《募金箱について》



秋季大会で使用した募金箱は、県立本庄特別支援学校高等部木工班の生徒たちが作成したものです。



埼玉県のマスコット
コバトン

平成23年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」（国庫補助事業）は、障害者スポーツ指導者を活用し、地域の障害者スポーツの振興を図ることを目的とした事業でこのモデル事業（埼玉県障害者スポーツ協会ほか1県）として「埼玉県ふれあい地域振興事業」を実施するものです。この事業は、「障害のある人と障害のない人がともにスポーツを楽しみ、スポーツを通じた共生社会の実現を目指すとともに障害者の暮らす身近なスポーツ環境の充実を図ることを目的に4事業（7開催）を実施します。

- (1) ふれあい野球教室は、障害者と高校生が同じグラウンドでボールを通して共生社会の実現を目指すことを事業のねらいとしています。
- (2) ふれあいフットサル大会は、障害者チームと青少年から高齢者までのチームが同じピッチの上でふれあうことによって共生スポーツの第1歩とすることを事業のねらいとしています。
- (3) ふれあいサッカー教室は、主に特別支援学級に対し、サッカーを通してスポーツ全般にも関心を持ってもらえるようそのきっかけづくりとして実施します。県内のバランスを考慮し4地区で実施します。
- (4) ふれあいウォーキングは、重度・高齢障害を含むすべての障害者が地域の方々と一緒に歩くことで将来的な共生事業のきっかけづくりとすることを事業のねらいとしています。

このうち、「ふれあい女子サッカー教室・上尾会場」は11月3日（木・祝）、「ふれあいフットサル大会」は11月5日（土）に開催しました。

ふれあい女子サッカー教室（上尾会場）

ボールは友だち！ ～みんな友だちになりました～



元なでしこ JAPANの北本綾子さん、元浦和レッズレディースの木原梢さん、森本麻衣子さんを講師に招き、上尾市内の特別支援学級、特別支援学校の生徒、OBにご参加をいただきました。

教室は、参加者の交流が図れるようジャンケンで遊ぶ「ジャンケン列車」から始まり、体も心もリラックスしたところでボールを使ったメニューに入りました。ボールも公認5号球、4号球、スポンジボール、バランスボールを使い参加者は好みのボールを選び、ドリブル、シュートにチャレンジしました。

最後に参加者全員で紅白戦を行い、教室を終了しました。保護者から「本物のサッカー選手と時間を共有できたことが良かった」

「多くの人と交流を図れたことが良かった」「楽しんで出来たこと。定期的に行ってください」「また、サッカーがしたいと思えるぐらい楽しかった」等の声が寄せられました。

指導にあたった元なでしこ JAPANの北本綾子さんは、「ふれあいサッカー教室では、子供たちの純粋さや一生懸命頑張る姿を見て、私が初めてサッカーをした時のことを思い出しました。今後もサッカーを通じてスポーツの楽しさや素晴らしさを伝えていきたいと思えます」と話されていました。

第2回所沢会場、第3回富士見会場、第4回羽生会場の様子は次報でお知らせします。



ふれあいフットサル大会

ひとつのボールを追って！ みんなはひとつ！！



県内から33チーム(内、障害者が参加したチームは18)が参加し、開催しました。開会式では、主催者、浦和レッドダイヤモンド近藤伸一郎長から挨拶があった後、各チームの主将から大会への抱負等力強いチーム紹介がありました。

今大会では試合だけではなく参加者チーム同士が応援をし合い、優秀選手を選ぶ方式を採ったのが大きな特徴になっています。FC人間ゴールズが道祖土サッカー少年団Bに贈った賞は「得点王香川シンジ賞」新座ネクストFCがレッドダイヤモンド後援会に贈った賞は「頑張ってボールを追ったで賞」FCパラダイスが浦和木崎サッカースポーツ少年団に贈った賞は「もっとみたかったで賞」アルディージャ後援会が所沢おおぞら特別支援学校に贈った賞は「おおぞらの壁賞」FC OBRAがターゲットズに贈った賞は、「なでしこ賞・君の笑顔は素晴らしいで賞」。どれもチームメイトが真剣に考えたことが伺えるネーミングばかり。試合を応援したり、賞を考えることによって、試合以外での交流も深めることができました。

表彰式では、一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会松本洋副会長、埼玉県障害者スポーツ指導者協議会河野章会長から表彰状並びに記念品が贈られました。

参加者からは、「とても楽しかった。また、参加したい」「フットサル大会を行われるのは良いことだと思う。たくさんチームとふれあえたし、来年もやってほしい」スポーツ少年団の選手は、「いろいろな人と交流ができてよかった。来年も交流したい」「楽しい試合をしたいから来年も参加したい」一般の部に参加した選手は「フットサル大会には数多く参加していますが、今大会に参加して貴重な経験をすることができました。今後とも是非この大会を継続してほしい」等の声が寄せられました。



たくさんの「絆」に支えられて

埼玉県選手団・80個のメダルを獲得



第11回全国障害者スポーツ大会は、10月22日（土）～24日（月）の3日間、山口県内各地で開催され、埼玉県選手団112名（選手70名役員42名）が参加しました。

埼玉県選手団は、個人競技では陸上競技・水泳・アーチェリー・卓球・フライングディスク・ボウリングの6競技と団体競技のバレーボール（精神）に参加。日頃の練習の成果を発揮し、金メダル32個、銀メダル24個、銅メダル24個を獲得しました。

今回埼玉県選手団の中には、親子選手・姉弟選手・兄妹コーチが初めて参加しました。陸上競技に親子で出場した祐川選手は「大会前は親子の会話は全国大会の話が中心で陸上のおかげで家族の絆がさらに深まった感じがします」と話していました。

家族の絆、役員・選手の絆、チームの絆。埼玉県選手団は全国大会を通して大きな絆を築くことができました。



😊個人競技成績優秀者😊

競技	種目	名前	記録	順位	備考
陸上競技	50m	祐川翔	16秒00	3	
	100m	村岡桃佳	21秒67	1	
		高桑早生	14秒52	1	
		大塚隼斗	12秒55	3	
		加賀美美優	14秒49	3	
	200m	小池洋子	14秒81	2	
		村岡桃佳	37秒57	1	
		大木阿耶	51秒19	2	
		加賀美美優	30秒26	2	
		富澤玲奈	31秒18	1	
		小池洋子	30秒91	1	
	400m	稲玉大介	24秒47	1	
		富澤玲奈	1分11秒47	2	
	800m	菅原泉	1分15秒38	2	
		稲玉大介	56秒15	1	
		岩附秀和	2分10秒12	3	
		菅原泉	2分57秒12	3	
	1500m	川田祥吾	2分10秒25	2	
		小林慶哉	2分08秒23	1	
		金子遼	2分16秒10	3	
		大木阿耶	8分13秒97	1	
		岩附秀和	4分29秒45	1	
		川田祥吾	4分32秒22	2	
	走幅跳	高桑早生	4m25cm	3	大会新記録
		立幅跳	武井富貴子	1m54cm	1
	ソフトボール投	柴崎潤一	36m14cm	2	
		武井富貴子	9m70cm	3	
加藤尚弥		51m35cm	2		
ジャベリックスロー	丸山滉太	68m73cm	2		
	柴崎潤一	18m24cm	3		
	三浦一二三	18m46cm	1		
	小川和幸	24m98cm	1		
	加藤尚弥	33m00cm	1		
砲丸投	丸山滉太	35m00cm	2		
	祐川強	12m03cm	1		
4×100mリレー	三浦一二三	6m56cm	2		
	小川和幸	8m89cm	2		
	加賀美美優	51秒74	3		
水泳	25m自由形	西田杏	19秒38	1	
		宮崎龍一	14秒80	3	
	25m背泳ぎ	箱田武夫	18秒09	2	
		後藤聡	16秒96	3	
	25mバタフライ	宮崎龍一	16秒52	2	
		皆川亜弥	24秒24	3	
	25m平泳ぎ	齋藤巧	14秒50	1	
		箱田武夫	24秒18	2	
	50m自由形	木村梓	47秒72	1	
		西田杏	43秒70	1	
皆川亜弥		39秒14	3		
50m平泳ぎ	齋藤巧	29秒52	2		
	木村梓	58秒95	1	大会新記録	
アーチェリー	CP30mWラウンド	齋藤清	635点	3	
卓球	STT	野田孝子	3点	2	
		横手勲	4点	1	
	一般卓球	武田宜久	4点	1	
		大野里奈	4点	1	
		海老澤京子	4点	1	
		新井啓介	3点	2	
		浅見徹	2点	3	
小針順一	2点	3			
フライングディスク	アキュラシー ディスリート5	北田八千代	10投	1	
		森作光里	6投	2	
		岩崎桂祐	8投	3	
	アキュラシー ディスリート7	新井孝志	5投	3	
		大澤直樹	6投	2	
		岸野達哉	6投	2	
	ディスタンス 立位男子	新井孝志	41m85cm	1	
		岩崎桂祐	49m93cm	3	
		大澤直樹	62m70cm	1	
	ディスタンス 立位女子	岸野達哉	64m15cm	1	
北田八千代		28m26cm	1		
森作光里		48m60cm	1		
ボウリング	高田 智穂	36m53cm	3		
	中原由貴江	514点	3		
	北澤祥江	480点	2		
	中原大貴	601点	2		
	上田聡一郎	521点	3		



ボウリング競技 上田 聡一郎

『今回、初めて全国障害者スポーツ大会でボウリングに出てみて、始めは全国大会に出場できると決まっただけで、始めはうれしい気持ちでした。ただ、最初は少しとまどいがある、他のボウリング代表の人と仲よくできるかと。説明会で初めて全員とあった時にその不安も消えて自分の中では大丈夫と思いました。そして大会当日、まず自分のよういをしてボックスに入って、いっしょに投げる選手に挨拶をして練習投球まで、選手達と少し話をしてました。練習投球が始まって、いつも練習で使っているボールを投げたらレーンコンディションがドライで、ボールが曲がりすぎてしまい、結局スベアをとるボールで投げるようになって前半はものすごい苦戦をしました。次の日も同じレーンコンディションで苦労しましたが、3位入賞となりとてもうれしかったです。試合終了後家族に連絡したらビックリしていました。帰宅後会社の上司に話をしたら、とても喜んでくれ「来年もがんばってね」と言われました。来年にむけてさらにレベルを上げたいと思います。』

陸上競技コーチ 高野 大樹

『「やった！自己ベストだ！」「金メダルで嬉しい！」「負けて悔しい、来年はリベンジする！」・・・このような言葉を大会期間中に数多く耳にしました。なぜこのような言葉が飛び交うのでしょうか？それは、選手にとって「スポーツをする」ことが「人生を充実させる」ための重要な存在になっているからだと思います。われわれ人間は「誕生」と「死」に挟まれた限られた期間としての人生を、充実した豊かなものにしたいと、心のどこかで必ず願っています。そして、人類が長い時間をかけて作り上げてきたスポーツは、「人間が豊かな人生を実現していくためのツール」として今日まで受け継がれてきました。このようにスポーツを捉えてみると、今大会を通して選手たちは「人生を充実させるツール」を手に入れたと言えるのではないでしょうか。また「人生を充実させるツール」を手に入れた人間は、より一層の充実に向かってひたむきに一生懸命に頑張ります。そして、その一生懸命は、みている人達に大きな感動と元気を与えます。このことはボランティアさん達の「感動しました」「勉強になりました」「楽しかった」という言葉からもわかります。私自身も選手達の一生懸命な姿に多くの感動を感じ、涙を流し、「よし！頑張ろう！」という気持ちになりました。「君の一生けんめいに会いたい」。ほんとうの意味でこの大会スローガンに相応しい、素晴らしい大会になったと感じています。

最後になりましたが、大会開催にあたりご支援・ご尽力いただいたご家族及び埼玉県役員開催地である山口県役員・ボランティアの皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。』

陸上競技 小池 洋子

『私は山口大会に5泊6日で参加しました。10月23日の午前中に200mを走り、初めての全国大会だったけど、あまり緊張しないで走れました。自己ベストが出て1位になり、とてもうれしかったです。その日の夕方に100mを走り、ひざが痛かったけど頑張って2位になりました。10月24日に400mリレーに出場しました。今までよりバトンパスが上手にできてうれしかったです。リレーは3位になることができました。練習会の時から本番まで、たくさんのコーチにお世話になりました。応援してくれた人みんなに感謝しています。これからも陸上を頑張りたいです。』

卓球競技 武田 宜久

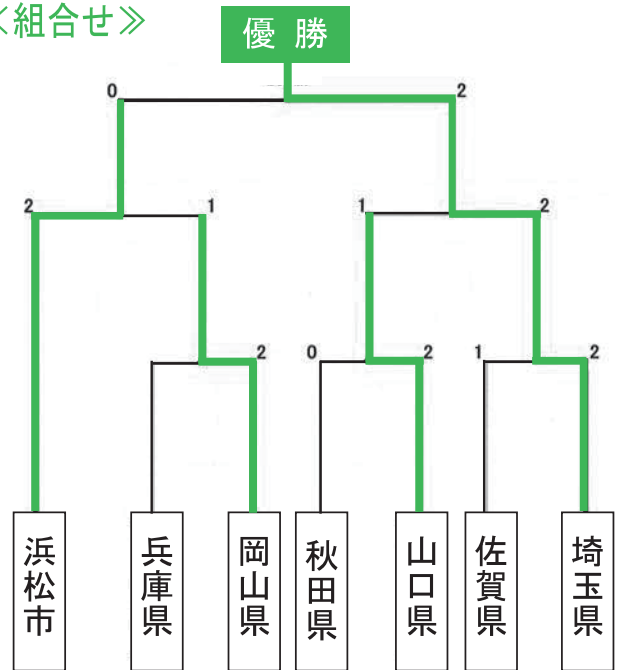
『今回の「全国障害者スポーツ大会」2回目の出場になりました。今回は、旗手をやらせていただき、はじめは緊張でいっぱいでした。協会、監督、コーチの皆さんのお陰で楽しく開会式ができ、良い経験になりました。試合の方でも、初戦から厳しい試合の中、監督・コーチはじめ皆の応援のお陰で良い結果を残すことができました。この経験をこれからの生活に活かせるように頑張りたいです。色々な方のサポートのお陰で競技に集中することができました。ありがとうございました。』



みんなで勝ち取った「全国制覇」



《組合せ》



埼玉県選抜チーム 主将 藤田 順俊

『今大会は「東日本大震災復興支援第11回全国障害者スポーツ大会」として「たちあがれ！東北 がんばろう！日本」の合言葉のもとで開催されました。おいでませ！山口大会に参加して何よりも感じたことは「あいさつ」の大切さです。どこの会場に行ってもすれ違う人たちが元気なあいさつで出迎えてくださったことが印象的でした。元気なあいさつのおかげで「今日も頑張るぞ！」と何度もパワーを頂きました。バレーボール競技は今回の埼玉県選手団の中で唯一の団体競技の参加で、今大会より単独チームとしてではなく、埼玉県選抜チームとしての参加となり「全国制覇」という大きな期待をひしひしと感じていました。チームの実力に関しては、間違いなく頂点に立てるだけの力を持っていることはわかってはいましたが、5泊6日という遠征期間の長さや試合以外の式典等の参加など普段の生活とは異なることの連続に大きなストレスを感じていた選手も少なくありませんでした。それらを乗り越えられたのはチームの「絆」の力であり監督をはじめコーチ、マネージャー、スタッフやボランティアさん等チームに関わってくれたすべての人たちの力で勝ち取った「全国制覇」だと思います。大会に参加するにあたり多くの皆様に応援やサポートしていただき無事に大会を終えることが出来た事に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも大好きなスポーツを続けてたくさんの素晴らしい出会いと感動に出会えることが楽しみです。』



平成23年度彩の国ふれあいピックバレーボール大会（精神障害の部）

ジャンクション埼玉 接戦を制し優勝



平成23年度彩の国ふれあいピックバレーボール大会（精神障害の部）中央大会（第24回県民総合体育大会兼第10回埼玉県障害者スポーツ大会）を、11月19日（土）埼玉県立武道館主道場で開催しました。

今大会には、県内を2ブロック（東南ブロック・北西ブロック）に分け各ブロックでリーグ戦を行い各ブロックを勝ち抜いた8チームが参加しました。決勝戦は昨年度同様に「パワーズ埼玉」対「ジャンクション埼玉」セットカウント2-1でジャンクション埼玉が昨年の雪辱を晴らし、優勝を果たしました。

この大会で選考された選手による埼玉県チームは、来年10月に開催される「第12回全国障害者スポーツ大会ぎふ清流大会」の予選会である関東ブロック地区予選会に出場し、全国大会出場を目指します。

《中央大会出場チーム》ジャンクション埼玉、WIN'S埼玉、シリウス、アンバランス、フォルテ熊谷、ダイナソーズ、パワーズ埼玉、強健美茶

小雨の中 好試合が続出

彩の国レッドキング甲、埼北スポーツクラブAが優勝



平成23年度彩の国ふれあいピックフットベースボール大会（第24回県民総合体育大会兼第10回埼玉県障害者スポーツ大会）を11月6日（日）熊谷荒川緑地において開催しました。当日はあいにくの空模様でしたが、雨にも負けない熱い戦いを繰り広げました。

チャンピオンシップの部4チーム、フレンドシップの部9チームが出場し、チャンピオンシップの部は彩の国レッドキング甲、フレンドシップの部は埼北スポーツクラブAが優勝しました。

今大会で選考された選手で結成される埼玉県チームは来年10月に開催される「第12回全国障害者スポーツ大会ぎふ清流大会」の予選会である関東ブロック地区予選会に出場し全国大会出場を目指します。

《結果》

【チャンピオンシップの部】

優勝 彩の国レッドキング甲
準優勝 埼玉ボンダガールズ
第3位 FBまりちゃんず

【フレンドシップの部】

優勝 埼北スポーツクラブA
準優勝 久喜特別支援学校
第3位 彩の国レッドキング乙

《参加チーム》

埼玉ボンダガールズ、FBまりちゃんず、彩の国レッドキング甲、コンサドーレ本庄、久喜特別支援学校、埼北スポーツクラブA、埼北スポーツクラブB、本庄ゆきちゃんず、くじら、はばたきメロン、千日前商店街、彩の国レッドキング乙、本庄ブルーサンダー



アルディージャカップ表彰式

憧れのスタジアムで表彰式 「来年もまたここで」



第4回大宮アルディージャORANGE! HAPPY!! SMILE CUP!!!優勝チームの表彰式が、平成23年10月1日（土）、2011Jリーグディビジョン1 第28節大宮アルディージャvsアビスパ福岡の試合に先立ち、NACK5スタジアム大宮において行われました。

オレンジ色でスタンドを埋め尽くされた大観衆の中、優勝したチーム桜Aに大宮アルディージャ鈴木茂代表から表彰状・優勝カップが贈られました。また、ホームゲームイベントとして行われている「アルディとPK対決2011」にチーム代表者1名が参加し豪快なシュートをきめました。

鈴木代表から当協会松本副会長に「来年もまたここで会いましょう」と温かい言葉をいただきました。

2011FIDジャパン・チャンピオンシップ バasketボール大会

2011FIDジャパン・チャンピオンシップバスケットボール大会（主催 日本FIDバスケットボール連盟他、協力 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、埼玉県障害者バスケットボール連絡協議会）が、平成23年8月20日（土）、21日（日）彩の国くまがやドーム体育館、県立熊谷女子高等学校体育館において開催されました。

全国から28チーム（男子Aブロック4チーム、男子Bブロック6チーム、女子8チーム）が集まり、熱戦を繰り広げました。

埼玉県からは男子Aブロックに彩の国レッド・キング、フューチャーズ、男子BブロックにSAKURA、女子の部にさくらプリンセス、あさがおの計5チームが参加しました。



チャリティ関東寄席（主催関東自動車グループ）の収益金の一部が一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に寄付されました。



関東自動車株式会社森田正治取締役副社長から一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会松本洋副会長に贈られました。

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会は、皆様の会費によって運営されています。

障害者のスポーツ活動の普及・充実をはかるには多くの皆様のご理解とご協力が必要です。

ぜひとも、賛助会員として皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

■賛助会員（個人）1口・・・1,000円

■賛助会員（団体）1口・・・5,000円

■賛助会員費振込口座番号

振込先名義：一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

①武蔵野銀行 大宮支店 普通口座 1047615

②郵便局 振替口座 00190-6-559638

障害者のスポーツをご支援くださる賛助会員をご紹介します

☆☆
クラブILO
☆☆

当クラブは、「大里町を大好きになろう！」と発足し、町の環境美化の活動から始めた団体です。構成員は、好きな時に、できる範囲での活動に参加すればよいこととしたゆるゆるの団体です。そのため誰でも参加できることからみんなが無理なく、ゆったりと、楽しみながら活動をしています。



マタニティマーク普及のために作成した大マークです。

大里町は合併でなくなりましたが、自然保護活動、海外の子供への支援活動、趣旨に賛同した活動への寄付など活動の幅は世界にも広がっています。

今後も国や行政などには頼らず、何ものにもとられないゆるゆる活動をしていきます。

スポーツは苦しいことも楽しいこともあり、人生のようです。誰の人生にも障害の有無に関係なく苦楽があります。だから障害があることを特別扱いすることなく、楽しい人生を送ろうと努力している全ての「人」をゆるゆる応援します。一緒にほだほだに頑張りませうね(^_^)v

埼玉県障害者スポーツ協会の皆様へ

ブラインドサッカー、陸上競技など
今、皆様の活躍する場が広がっています。
そして、若い人達にさらなる感動を
与えて下さるよう、心より応援申し上げます。

EVENT PROMOTION

イベント企画・立案
イベント演出・進行
イベント運営

CATERING

パーティー料理
会席料理
お膳料理・お弁当
葬祭料理

SHOP
&
RESTAURANT

埼玉スタジアム2002
さいたまスーパーアリーナ
しらこぼと水上公園
NACK5スタジアム大宮
レストランパル草加
はなさき水上公園

CONSTRUCTION
&
MANUFACTURE

会場設営
看板製作



株式会社 グリーン企画社
048-824-5880
さいたま市浦和区針ヶ谷3-5-5

当協会ホームページでは、
大会情報・報告を随時更新しています

彩の国ふれあいピック大会、全国障害者スポーツ大会をはじめ、当協会の自主事業のご案内や報告など、埼玉県のスポートの情報が盛りだくさんです！

▼一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会
ホームページ

<http://sainokuni-sasa.or.jp>

埼玉県障害者スポーツ協会

検索

当協会発展にご尽力された森孝慈氏が7月17日
ご逝去されました。

ここに長年のご活躍に深く感謝申し上げますと共に
心からご冥福をお祈り申し上げます。

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会